

森のニュース 2

研究最前線 「ヤマビル」 対策

ヤマビルの被害

丹沢山地の里山にヤマビルが生息し、農業者や住民に吸血被害が出始めてから概ね10年になります。ヤマビルの被害の深刻さは、吸血による身体的なダメージより薄気味悪さや恐怖といった精神的なダメージが大きく、その分地域社会に深刻な問題となっています。



図-1 日本ヤマビル

ヤマビル防除研究体制

現在行っているヤマビル防除研究は、平成19年度から2カ年の調査研究で、県の5つの試験研究機関と大学、民間機関の2つの研究機関が共同して当たっていますが、当センターでは、ヤマビルの生態、生息分布と生息域拡大要因、被害予防や駆除対策に関する調査研究を行ってきました。

ヤマビルの生息と生息域の拡大

ヤマビルの生息は、丹沢・大山を中心とする8市町村に及んでおり、北部の相模原市津久井町と藤野町、東部の清川村や厚木市及び愛川町、南部の秦野市や伊勢原市で生息が確認されましたが、これまでいないとされていた西丹沢の松田町や山北町の数カ所でもヤマビルの生息が確認されました。

(この調査結果は今年3月の中間報告書「ヤマビル生息マップ2007」で情報提供)

生息域拡大の解明

このように、ヤマビルは年々生息域が拡大していますが、この拡大要因を解明するためヤマビルが吸血した血液分析等の研究を行い、ニホンジカやイノシシ、タヌキ、ハクビシンなど、中・大型野生動物がヤマビルの宿主となって運搬し拡大させていることを解明しました。

ヤマビル防除研究

ヤマビル防除の研究は、現在、薬剤による防除とヤマビルの生態を基本にした防除の両面から進めています。薬剤防除は、ヤマビルが主に水源地域に生息していることから、水源環境に影響の少ない薬剤による防除効果を検証しています。また、生態的な防除については、ヤマビルが棲みにくい環境づくりを行うため、下草刈りや落ち葉掃きなどによる防除効果の検証試験を行っています。

調査研究結果

これまでの調査研究から、根本的なヤマビル防除対策は、ニホンジカなどの中・大型の野生動物の生息密度を低減させることであり、ヤマビルの未生息地域に拡大しないよう有害鳥獣駆除対策などにおける行政間の連携協力を推進していくことがヤマビル防除のうえから重要であると思います。

以上の研究成果の詳細は、今年度末に「ヤマビル対策共同研究報告書」として作成し情報提供を行う予定です。ご期待ください。

(神奈川県自然環境保全センター
研究部長 岩見光一)

ヤマビル対策共同研究概略図

